

## メッセージ

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部

部長 木 倉 敬 之

障害保健福祉部企画課自立支援振興室

室長 山 田 登志夫



Toshio Kikura  
Director-General

本日、日本で初めて、ここ東京において、「第6回アジアオストミー協会大会」が、日本オストミー協会及び関係者の方々の多大な御尽力により盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

アジア各国から参加された皆様、ようこそおいで下さいました。我々も皆様を大いに歓迎するとともに、この大会を通じて、アジア各国のオストメイトの方々や多くの関係者の皆様が、情報交換や経験を分かち合い、オストメイトのQOL向上に向けて大いに議論していただくとともに、国境を越えてさらに交流が深まることを期待しております。

癌が主たる原因で人工肛門、人工膀胱の造設手術を受けたオストメイトの方々は、その障害特性から外出を控えるなど、内向的な傾向が強くなるとっております。日本オストミー協会におかれましては、講習会の開催や会報の発行等を行い、会員同士の交流を通じて一日も早く社会復帰ができるよう積極的に支援を続けてこられ、また、モンゴルへの国際的支援活動も進められております。協会のこれまでの御尽力に対し、改めて敬意を表します。

「国連・障害者の十年(1983-1992)」に続く取組として、日本、中国ほか33か国による共同提案である「アジア太平洋障害者の十年(1993-2002)」も、さらに十年延長する決議が採択され、現在これに基づき、アジア諸国において障害者施策の向上を目指す努力が続けられているところです。

厚生労働省といたしましては、障害者自立支援法に基づき、オストメイトの方々にとって必要不可欠なストーマ装具の支給等を行っているほか、オストメイト対応トイレの普及のための予算を確保するなどの施策を進めているところです。今後とも関係者の皆様方の御意見を伺いながら、施策の一層の推進に努めてまいりますので、引き続き、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

この大会には、海外から18ヶ国約50名の方が参加されていると聞いておりますが、どうぞ大会終了後には、国内の名所景勝地等を観光していただき、地域の人々と交流されるなど、思い出をつくっていただければ幸いです。

最後になりましたが、本大会の開催に御尽力されました日本オストミー協会はじめ関係者の皆様の御努力に感謝申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

平成20年11月14日